

ALPS 処理水希釈放出設備 現地確認結果 報告書(概要)

確認年月日	令和4年11月25日(金)	確認目的	工事の進捗、施工品質の管理
確認箇所	K4タンクエリア		
確認設備	<input checked="" type="checkbox"/> 測定・確認用設備	<input type="checkbox"/> 移送設備	<input type="checkbox"/> 希釈設備 <input type="checkbox"/> その他

測定・確認用設備の一部である循環配管の設置工事が行われていることから状況を確認した。

配管と配管を融着※により接続する作業が実施されていた。(写真1)

施工上の留意点として、以下を確認した。

- ✓ 融着時の設定入力にバーコードを用いていた(融着条件の誤設定防止)
- ✓ 加熱時間、冷却時間等を施工記録簿に記録するとともに、施工部材にも記載していた。
- ✓ 融着面への異物の混入を防ぐため、エタノールを染み込ませたペーパータオルで融着面の清掃をしていた。
- ✓ その他、施工要領書に記載の手順で作業が行われていることを確認した。

※ALPS 処理水希釈放出設備の配管は、主にポリエチレン管を用いることとしており、配管と配管の接続は熱を加えて融着している。

確認
結果

	
<p>(写真1-1) 配管の融着作業の状況</p>	<p>(写真1-2) 配管を挿入するソケット融着のための設定条件が記録されたバーコードが貼付されている</p>
	
<p>(写真1-3) 配管を挿入するソケットの内側 内側熱を加えるための電熱線がある</p>	<p>(写真1-4) 融着後の配管 加熱時間、冷却時間が部材に記録されている</p>

【東京電力からの聴取内容】

加熱時間、冷却時間は、管のサイズにより異なり、ソケットに貼付されているバーコードを読み込むことにより、気温等を考慮して自動で設定される。冷却時間が経過するまでは、配管とソケットに無理な荷重を加えないように注意が必要。